

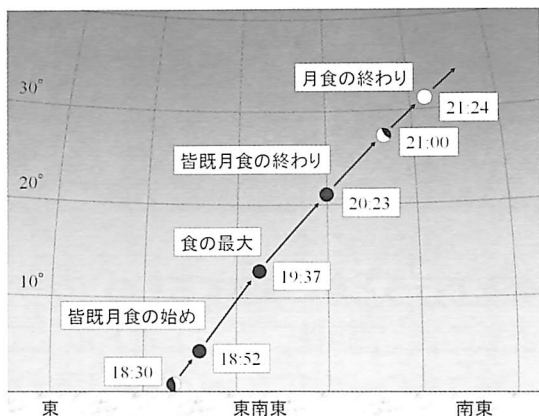


## 2007年 注目の天文現象

いよいよ新しい年のスタートです。2007年とはどのような天文現象が起きるのでしょうか。8月には久しぶりに皆既月食が見られます。12月には火星が最接近となります。また今年は流星群もよく見えそうです。今年注目の現象を紹介しましょう。

### <皆既月食>

8月28日には、月全体が地球の影に隠される**皆既月食**が起こります。月食が始まるのは17時51分ですが、この日の大阪の月の出は18時28分のため、月が欠けたまま昇ってくる月出帯食になります。月が完全に欠けるのは18時52分で、20時23分までの1時間半ほどの間、皆既の状態が続きます。その後地球の影から出て欠け具合が小さくなっていき、21時24分に月食が終わります。夏休み終盤で、月食の時間帯も手ごろのため、ぜひ観測したいものです。



### <日食・月食>

今年は2回日食が起こりますが、いずれも部分日食で、皆既日食や金環日食は起こりません。そのうち**3月19日の部分日食**は日本からも見る事ができます。ただしこの日食が見られるのは、北海道もしくは中国・四国・九州地方で、残念ながら大阪では見る事ができません。食分もせいぜい数%で、気をつけないと太陽が欠けていることにさえ気づかないかもしれません。

月食は8月28日の皆既月食のほか、**3月4日にも部分月食**が起こります。これはヨーロッパ方面では皆既月食として見られるものですが、日本では西日本で欠け始めのごく一部が見えるだけです。月食の始まりは朝の6時30分で、大阪では月没の後となり見ることはできません。

### <火星の最接近>

火星の公転周期は1.88年で、およそ2年2ヶ月ごとに地球に接近します。今年は12月19日、その2年2ヶ月ぶりの最接近となります。今回の接近は、前回や



前々回の時に比べるとやや遠い中接近となりますが、最接近のころにはマイナス1.6等級の明るさとなり、冬の夜空でおおいぬ座のシリウスとともに明るく輝くのが見られるでしょう。

### <プレアデス食>

ここ数年間は、月がプレアデス星団（すばる）を隠す食が起こりやすくなっています。今年は7月11日深夜、9月30日夜、および11月24日の夜、月がすばるの星々を通過していくのが観測できます。月が明るいいため肉眼では難しいですが、双眼鏡を使えば簡単に見ることができます。

### <惑星のうごき>

**水星**はいつも太陽に近いので、夕方方の西の空か、明け方の東の空にししか見ることができません。動きも早いので、観測しやすい時期は限られています。（右の表参照）

2007年に水星を見やすい時期	
夕方方の西の空	明け方の東の空
2月前半	3月
5月後半～6月前半	7月後半
9月後半	11月前半

**金星**は、今年7月ごろまでは夕方

の西の空に見えています。徐々に明るさを増していき、7月12日にはマイナス4.5等級の最大光度になります。その後内合となり太陽の前面にきた後、9月以降は明けの明星として夜明け前の東の空に見えるようになります。

**火星**は、8月ごろまでは深夜から明け方にならないと東の空から昇ってきませんが、少しずつ昇ってくる時間が早くなり、12月の再接近のころには一晩中見えるようになります。

**木星**は、今年の3月ごろまでは深夜から明け方に東の空に見えています。6月6日に衝（地球から見て太陽の反対方向にある状態）になり、一晩中見える観望好機となります。6月～9月頃は、夕方方の空にさそり座の1等星アンタレスと並んでよく見えるようになります。12月以降は太陽に近づき見えなくなります。

**土星**は2月11日に衝になりますので、年の前半は夕方方の東の空で見やすくなります。7月～9月は太陽に近く見えませんが、10月以降は明け方に見えるようになります。

### <流星>

8月13日の**ペルセウス座流星群**、および12月14日の**ふたご座流星群**の日とも月明かりの影響を受けることなく、最高の条件で見ることができます。郊外なら1時間に30個から50個程度の流れ星が見えるでしょう。

（江越航：科学館学芸員）